

事業名： 総合的な学習の時間モデル事業

学校名： 東広島市立豊栄中学校

所在地： 東広島市豊栄町鍛冶屋341-1

HP： toyosaka-chu@city.higashihiroshima.hiroshima.jp

学年： 5学級 120名

1 研究の概要

(1) 研究テーマ及び研究のねらい

①研究テーマ

総合的な学習の時間の学習を通じて、生徒一人一人に「調べる学力」（目的+方法を自らの力で発見し、解決に取り組む力）を培うための指導の工夫と改善

～ 地域を調べ、地域に学び、地域に貢献する ～

②研究のねらい

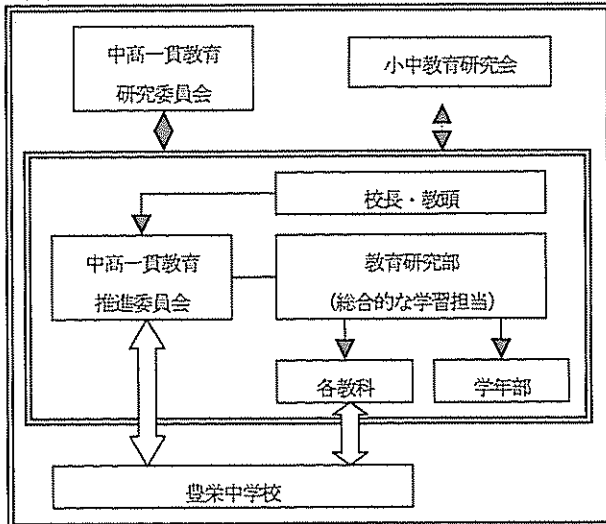
東広島市豊栄町は中山間地域に位置し、年々過疎化が進行し、中学校も生徒数が減少してきている。生徒は素直で純朴である。平成17年度より、広島県立賀茂北高等学校と連携型中高一貫校となり、中高6年間を通じて継続的な指導を行なえるようになった。

そこで、総合的な学習の時間で、次のような力を育てたい。

問題発見力	現実をしっかりと見つめ、自ら課題を発見する。
問題解決力	活動の目的意識を持ち、課題解決に向けて情報を収集して、効果的に活用しながら解決を図る。
情報活用能力	目的や意図に応じ広い範囲から情報を集め、効果的に活用しながら問題解決に役立てることができる。
コミュニケーション能力	相手の考え方を理解しながら聞くことができ、自分の考え方と比較し、より深く考えることができる。
表現力	自分の考えを持ち、他者に伝えることができる。

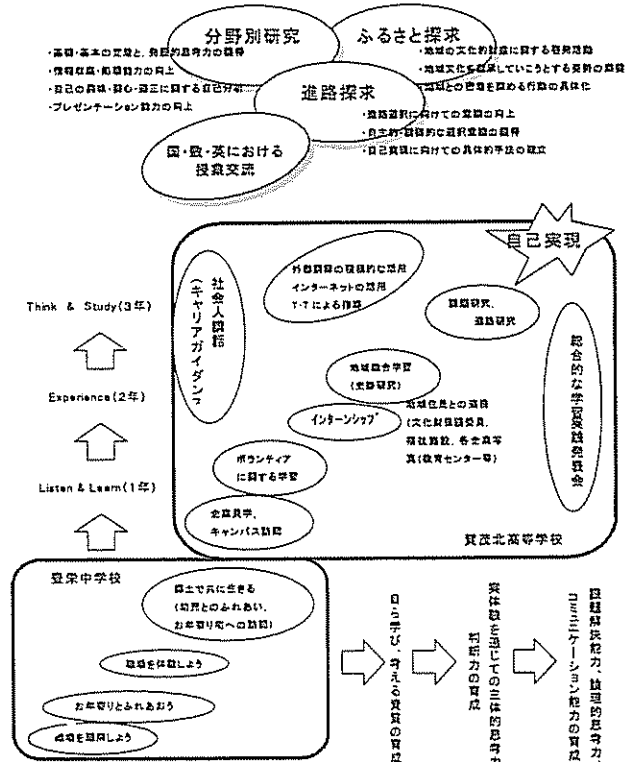
特に、自分達の暮らす地域を見つめ、地域の一員としての心を育てていくために、地域において体験学習を実施する。

(2) 研究組織・体制



(3) 研究内容

- 各学年で学習する内容を3つの視点「生き方を見つめる学習」、「心豊かに生きる学習」、「地域こふれる学習」で設定し、実施する。(2-①参照)
- 地域を焦点化し、各学年とも「地域学習」を設定して取り組む。
- 内容ごとに学習記録を記入し、各自が学習内容の確認と学習に関わる自らの姿勢の自己点検を行なう。
- さまざまな方法で材料収集を行い、効果的な発表の仕方を工夫する。



2 授業改善の視点

- 豊栄地域の独自性を発揮するための指導方法、指導体制の研究を行なう。
 - 1年 豊昌苑(介護老人福祉施設)を訪問し、お年寄りの方とのふれあいを体験する。
 - 2年 地域の職場での仕事を体験し、勤労の尊さを学ぶ。
 - 3年 保育所訪問やお年寄り宅への訪問を通じて、郷土で生きることを再認識させる。
- 生徒のプレゼンテーション能力や課題解決の手法の更なる向上を目指し、学年に応じた手法で地域や保護者に発表の場をつくる。
 - 1年 職場見学(横巻紙)
 - 2年 職場体験(プレゼンテーションソフト)
 - 3年 高校調べ(冊子)
- 2月には「中高一貫教育改善充実研究事業および総合的な学習の時間モデル事業合同実践発表会」で更に充実させたものを各学年より1発表する。

3 研究の成果と課題等

(1) 成果

- ・生徒のプレゼンテーション能力や課題解決のための資料収集技術・処理方法を高め、学びをパワーポイントや報告書にまとめ、自分の言葉で発表することができた。
- ・学年ごとに「生き方を見つめる授業」として職業について学び、望ましい職業観の育成を図ることができた。
- ・学年ごとに「地域にふれる学習」として豊栄町を見つめ直し、様々な体験学習を実践することにより、地域の一員としての自覚をすることができた。また、地域の方々からの理解と協力が得られた。

(2) 課題

- ・地域の学校として、中高6年間を継続させた「地域にふれる学習」のカリキュラム作りを更に進め、地域に貢献できる活動を実践していく必要がある。
- ・中高6年間を通して、社会人として自立するための人間力の育成を図る教育の研究と推進を図ることが必要である。

(3) 今後の改善方策等

- ・中高間で互いの実践内容や成果を更に共有させ、学習連携の推進を行なう。
- ・3年生の取組みの主である「お年寄り訪問」をまとめて発表する場がなく、学年のみの取組みに終わっているため、下級生に伝える場をつくる必要がある。
- ・3年生のお年寄り訪問に向けて、1年次より地域から学ぶ学習を更に進めていく。

4 実践事例

(1) 学年・・・3学年 教科等名・・・総合的な学習の時間

(2) 単元の紹介

① 単元名 郷土で共に生きる

② 単元の目標

自分と同じ地域で生活しているお年寄りとのふれあいや、地域を見つめ「ふるさと」である豊栄の一員として、郷土（地域）を大切にでき、誇りに思えるような気持ち（心）を育てる。

③ 単元の展開（指導計画）

- 7月 訪問Ⅰ・・・うちわを作って訪問
お年寄りからしっかり話を聞く。
- 10月 訪問Ⅱ・・・プレゼント（巾着袋）をもって訪問
インターネットを利用し、お年寄りに喜んでもらえるものをつくって訪問する。
- 12月 訪問Ⅲ・・・手作り弁当をもって訪問
お年寄りに喜んでもらえるメニューを考え、料理して訪問する。
- 12月 訪問Ⅳ・・・年末の大掃除をするために訪問
掃除道具を持参し、お年寄りだけでは普段できない大掃除の手伝いをする。
- 2月 訪問Ⅴ・・・手作りのおやつをもって訪問
お年寄りの好みに合う茶菓子を考え、最後の訪問をする。

(3) 授業改善のポイント

① 指導方法の工夫

- ・原則として生徒が住んでいる地域の男女2名でペアになり、訪問する。
- ・訪問を繰り返し行い、課題を明確にした課題解決的な学習を仕組む。

② 教材の工夫

- ・訪問2週間前には必ず訪問の手紙を届け、前日に電話連絡をした。
- ・リサイクル活動、運動会、文化祭の案内や年賀状を届けた。

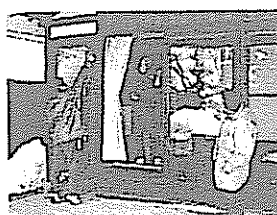
③ 評価の工夫

- ・訪問毎に、訪問に向けての取組み、訪問で行なったこと、訪問しての感想、次回に向けての項目で振り返りを記入し、次の活動に生かせるようにした。

(4) 授業の様子（生徒の変化）

5回の訪問を終えて、生徒の感想

- ・1回目の終了時は、もう行きたくないと思っていたのに、行くごとに楽しみになっていました。
- ・今まで地域のお年よりの方とこうやって話をするとはなくて、一番初めの訪問の時は緊張しすぎて、自分から話すこともできなかつたし、固まってしまって何もすることができませんでした。けれど、だんだん訪問する日を重ねていくにつれて自分から積極的に話していけるようになってとてもよかったです。
- ・やはり、数を重ねるとお互いに打ち解けて、何でも話せる仲になるものだと思います。今回の訪問は、今までのような話に加え、お手玉などもしてみました。悔しいけれど、自分よりもはるかにお年よりの方が上手かったです。
- ・すごく楽しかったです。もう訪問という形はないけれど、行ける機会があったら行って話をしたいと思います。
- ・心から自分を応援してもらっているのが嬉しかった。こたえられる様に高校に行っても頑張りたいと思ったり、パワーが不足したら、また訪問したいと思います。



年末大掃除



巾着作り

(5) 成果と課題

- ・各自が課題意識をもって活動に取り組み、さまざまな方法で情報を収集し、効果的に活用しながら課題解決を行うことができた。
- ・お年寄りの方と交流する上で、相手の気持ち、心を大切にしたい活動を行うことができた。
- ・お年寄り宅への訪問依頼文の持参・訪問前日の電話・学校行事への招待文・年賀状など、5回の訪問を軸として、あたたかく迎えてくれる地域に触れることができ、地域の良さを発見することができた。